

～中国のタクシー事情～

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)  
木下 清治

タクシーは、どの国・どの街にいても走っており、人々の大切な交通手段の一つになっていますが、国・地域によって料金、利用方法、習慣などが異なります。

青島のタクシーは、最近キレイなものが増えてきたとはいえ、まだまだ日本では考えられないほど古く、高速道路を走ると、車体がガタガタと揺れ、とても怖くなる時もあります。また、車の中もゴミが散らかっていたり、ホコリが多かったり、汚いことが多く、シートベルトをすると服が汚れることもあります。

乗車する際は、一般的に公道を走っているタクシーを手を挙げて止めますが、駅、空港、ホテルなどでは客待ちしているタクシーもあります。最近では、携帯アプリで、タクシーを呼ぶことが一般的になっています。利用者は、「お客様版」アプリをスマートフォンにダウンロードし、GPSや音声によって、自分の位置と目的地を近隣の運転手(タクシー会社間の隔てはなく、「運転手版」アプリをダウンロードしている全運転手を対象)に一斉に伝え、運転手は、早い者勝ちで利用者からの呼び出しに答えます。もし、タクシーがなかなか捕まらない場合には、利用者側から3元・5元・10元とインセンティブを提示することもできます。また、お金の支払い方、タクシーの予約、車種のタイプなども選択できます。マッチングが成功すると、利用者のもとへはタクシーのナンバーなどの情報が、運転手のもとには利用者の電話番号などの情報が発信されます。このアプリが登場するまでは、配車センターに電話をかけていたようですが、今ではアプリを利用する人ばかりです。青島でこのアプリを利用していないタクシーは見たことがありません。しかし、逆に言えばアプリを利用しなければ、タクシーを捕まえることが難しくなっています。

タクシー料金の計算方法は、日本と同様で、距離と時間によって料金が加算されますが、タクシーの初乗り料金は9元(約180円)のものと、12元(約240円)のものがあります。12元のものの方が多少キレイで中が広いようですが、料金も12元のものの方が早く上がっていきます。

中国では、タクシーに乗る際も日本とは少し違います。自動でドアが開くタクシーはありませんし、一人で乗るときは助手席に座ることも多いです。また、一般的に青島のタクシードライバーは、日本ほど接客がしっかりしているとは言えません。制服をきちんと着ていなかったり、運転中にタバコを吸いだしたり、携帯電話で話したりなど…。さらには、標準語を話せるドライバーが少ないので、会話を成立させるのに苦労する場合があります。



青島のタクシーの様子